

5-1 全体ゾーニング

自然エネルギーの積極的活用と防災機能の確保
 風力や太陽光発電など自然エネルギーを積極的に導入します。また、自然エネルギーを活用した防災機能を確保します。



市民による植樹など、できる限り市民の手づくりによる公園づくりを目指します。

凡 例	
	植樹予定地
	地下タンク
	出入口(歩行者)
	地上タンク
	出入口(車両)
	敷地境界
	既存樹林地
	公園・緑地・農地
	既存通路
	標高(m)

周辺の緑との連携を生み出す「開港150周年の森」
 植樹により、失われた緑の回復を図り、周辺緑地等と連続した緑の軸を形成します。

金沢本来の自然を保全・再生した、自然散策空間
 既存の緑を保全しつつ、金沢本来の自然が再生された森で、自然観察や散策を楽しむことができます。



森に囲まれた広場を設けます。



リサイクルパーク
 園内にはリサイクル品を積極的に採用します。

平らな地形を活かした広場空間の整備を行います。オープンスペースとする事によって、防災機能を確保します。



温暖化に配慮した生活体験・学習の場
環境共生型の生活体験空間
 タンクの処理を行いながら、「環境」をテーマにして整備を進めるゾーンです。



駐車場などを設置します。

ホテルの樓む流れを活かした水辺環境づくりを行います。

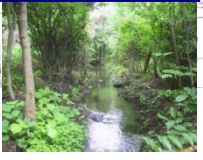


図 ゾーニング図

5-2 緑の回復エリア

○植樹により失われた緑を再生し、緑の軸の強化や緑の連続性の確保を図ります。
 ○開港150周年を迎える平成21年に、森づくりのスタートとして市民参加による植樹イベントを実施できるように調整を進めます。

- ◆以下のような視点から敷地内に植樹を行い(右図の濃緑部分)、緑の再生を図ります。
 - ・周辺の公園や緑地と一体となって連続した緑を創出する。
 - ・旧小柴貯油施設内においても、緑の連続性を確保しながら、全体として「開港150周年の森」を形成する。
 - ・敷地際の緑道と一体となって、緑の軸を強化する。
- ◆これによる植樹面積は、合計で約6haになります。(園路などの部分も面積に含まれます。)



図 植樹の考え方

- ◆旧小柴貯油施設においては、公園整備の進捗に応じて植樹等による緑の回復を図りながら、公園全体として「開港150周年の森」を形成します。
- ◆開港150周年を迎える平成21年に、森づくりのスタートとして市民参加による植樹イベントを実施します。
- ◆現地が国有地であるため、植樹イベントの実現に向けて、引き続き国との調整を進めます。

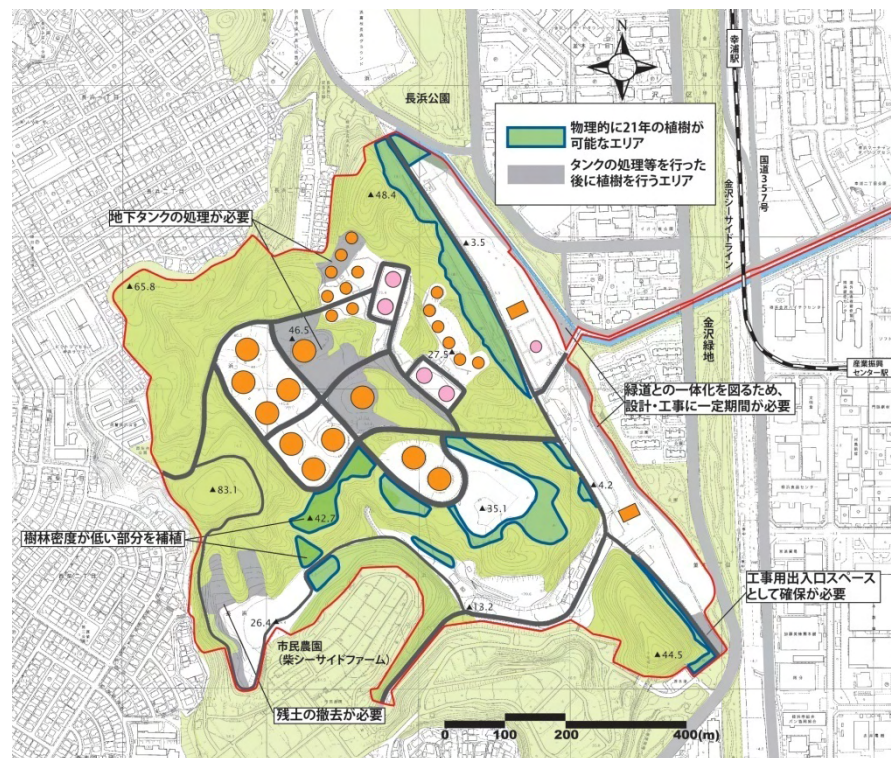


図 記念植樹実施候補地